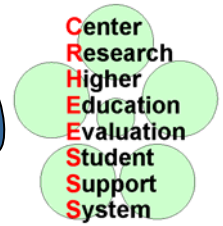


週刊センターニュース No.174



第174号(2007年9月18日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第158回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 2007年9月25日(火) 15時~16時30分

通常と曜日・時間が異なりますのでご注意ください。

場所: 角間キャンパス総合教育棟北棟D14講義室(小教室)

鶴間町キャンパス医学部保健学科5号館5104教室(中教室)

※今回は、双方向遠隔授業システムで角間と鶴間キャンパスをつないで開催いたします。

報告者: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)、古畑 徹(共通教育機構長、文学部教授)

テーマ: 「来年度からの本学初年次教育における国語教育について」

趣旨: 近年、大学初年次教育に国語力の養成を組み込む大学が増えている。例えば筑波大学では「国語」が1年次全学必須科目となっている。本学では、来年度からの「初学者ゼミ」全学必須化により、「大学・社会生活論」、「初学者ゼミ」という導入・初年次教育の体制が整う。現行の「大学・社会生活論」においても「レポートの書き方」が学部による選択可能授業項目として用意されているが、今回は、「大学・社会生活論」、「初学者ゼミ」という新しい枠組みの中で文書作成能力をはじめとする国語力の養成を行う可能性について議論したい。古畑共通教育機構長より、「大学・社会生活論」の新規の選択授業項目について述べていただいた上で、西山からはリメディアル教育学会で報告されている授業実践例について紹介する。

○●○ 「全国大学教育研究センター等協議会」参加報告 ○●○

8月23日、24日に、本センターの早田幸政教授とともに、「全国大学教育研究センター等協議会」に参加した。前職場の広島大学高等教育研究開発センターが、継続的に協議会会場であったこともあり、ここ数年のセンター群の動向を見聞することが可能になっているが、今回2日間にわたる全体会、分科会での報告・議論を通して、我々センターが置かれている状況(正負両面について)を改めて再認識することができた。

1日目の本協議会加盟の各センターからの報告では、程度の差こそあれ、大学教育の充実のために様々な領域にわたって活動を進めていること(教員の教育力向上のための全学的・部局独自の講演・研修プログラムの企画・参加にはじまり、シラバス作成支援、成績評価に係る研究開発・実行など)、一方で課題として、自己点検評価や授業評価の結果のFDへの活用ないし実質化、全学FDと部局FDの連携強化、教員のキャリア形成の観点に立つ有効なプログラムの開発と配置、授業補助の学生アシスタント、さらにFDファシリテーターの育成など教育改善に資する人材開発・確保、そしてそれぞれの活動が有機的に連携し、相乗効果を生み出していけるような方法の模索等が挙げられた。

2 日目、分科会「センターの所属機関内における役割と今後の課題」に参加した。そこで報告された内容は、1 日目の報告と重なる部分も多かったが、特記すべきこととして、センターが大規模化（東北大や神戸大など）する一方で組織的一体性は弱いこと（兼務教員が大きな割合を占める場合もあることも手伝っており、兼務教員の参画のあり方を検討する必要があると考えている大学もあった）、全学からのセンターに対する認知および理解・協力の取り付けと併せ、センターの部局としての裁量権（権限）を確立すること、センターの業務範囲に対する認識（有り体に述べるなら、大学執行部と部局との距離のとり方）、責任主体の明確化などについて共通の課題意識を持っていた。

いずれにしても教育支援・学生支援に関係する各組織・活動がより機能的なものになるためにどうすればよいか、大学の理念、教育目標と照らしあわせ、少し時間をとって議論する必要があるように思える。
(文責：評価システム研究部門 渡辺 達雄)

○●○ 授業の内容及び方法を改善するために一学期初めの工夫①ー ○●○

後期の授業開始までもう少しです。講義ノートの準備をしながら、新学期はどのような授業にしようかと悩まれておられる方も多いと思います。今回から2回にわたり、授業開始時に活用可能な授業内容改善に向けた具体例を紹介します。

一つめは、受講生アンケートの活用です。

私の場合は授業初日に、前期に担当した薬学部専門科目「生命倫理学」について学部が実施した「学生アンケート結果報告書」のコピーを、後期授業「生命倫理学」の1回目に学生に配布することになります。今年は、6年制導入（昨年）のため、前期に旧カリキュラムの3年生に教え、後期に新カリキュラムの2年生に教えることになるのですが、シラバス上の内容は全く同じです。必修科目ですので、(共通教育の自由選択科目のように)過去の同一科目受講生のアンケート結果を見て履修登録をしないということはできません。したがって、こういう評価がありました、自由記述での「意見のおしつけである」という指摘については・・・、「プリントの字が小さすぎて読みづらい」という指摘については・・・、という具合に、コメント（言い訳？）をし、評価を上げる努力をしますという決意表明を行うだけです。実際にどこまで改善できるかは別にして、意欲を形にすることによって自覚を高めるといった効果はあると思います。

二つめは、受講前知識確認シートの利用です。

シートでは、生命倫理学の場合、まず、共通教育で私の科目を受講したことがあるかどうかを訊ねます。数人でもいる場合は、話の内容のダブりを可能な限り防ぐよう意識することになります。次に、シラバスで示した主要項目ごとに、関心の度合いと現時点での理解度を尋ねます。国家試験に「薬剤師倫理規定」（日本薬剤師会制定）等についての設問が出されますが、薬剤師国家試験合格のための授業を行っているわけではなく（国立大の合格率は私立大のそれよりかなり低い）、そもそもカリキュラム上広く生命倫理学を教えることを目的にしているため、まずは生命倫理に関する関心・期待を高めることが授業開始時に必要になります。

この二つはいずれも、授業最終回の「受講生アンケート」「受講後知識確認シート」と対での活用により、授業内容改善度を自己確認することにつながります。また、次学期のシラバスを改善することにつながります。手間は、たった一枚のアンケート結果配布、シート作成配布です。前者はおしきせだからどうも、という方もおられるかもしれませんが、後者は授業形式・受講者数等に応じて、教員それぞれの工夫次第で活用の幅は広がることになると思います。

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)